

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUPS分科会 更新日 2011/9/30  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際生理科学連合

(欧文) International Union of Physiological Sciences

(略称) IUPS

日本学術会議加入年(西暦) 1953 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Council

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	<u>Denis Noble</u>		<u>Yoshihisa Kurachi</u>	<u>Walter F Boron</u>
(国)	<u>UK</u>		<u>Japan</u>	<u>US</u>

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

任期は4年。理事(Council)の期間を含めて8年まで。4年毎の総会(General Assembly)の前に指名委員会を選出した候補リストが各国の加盟団体に提示され、総会において審議の後決定される。

加入国・地域の数 66 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

アメリカ、日本、英国、ドイツ、オーストラリア、中国、韓国、インド、ロシア、チリ、カナダ、ブラジル、ニュージーランド

国際学術団体のホームページURL <http://www.iups.org>

国際学術団体の年間運営経費 US\$114,000  
日本の分担予定額[事務局で記入] 1,374千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2013	37th IUPS 2013	Birmingham, UK	未定	未定	学術会議共催
2011	The 7th FAOPS 2011	Taipei, Taiwan	700	102	
2009	36th IUPS World Congress	Kyoto, Japan	3754	2251	学術会議共催
2007	FEPS Congress	Bratislava, Slovakia	500	0	
2006	FAOPS Congress	Seoul, Korea	800	80	

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	理事会(国際プログラ ム委員会)	イギリス	10	倉智代理井上 隆司	0
2009	役員会	パリ	15	金子章道	0
2008	役員会	京都	5	金子章道	0
2007	国際プログラム委員 会	京都	12	倉智嘉久、宮 下保司、他約 20名	0
2007	役員会、理事会	パリ	14	金子章道	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

学術雑誌 Physiology 1986年 News In Physiological Sciences として創刊。2005年に現在の誌名に変更。現在、米国生理学会と共同で発行。隔月間、年6冊。2007年のインパクトファクターは6.954でこの分野の学術雑誌78誌中第3位。

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <p>国際機関などの提唱で行った活動は無い</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <p>IGSUの加盟団体の一員としてその運営には随時提言を行っている。また、2011年9月11日に台北で開催された第7回FAOPS総会で2019年開催予定の第9回FAOPS大会を日本に招致する提案を行い、圧倒的多数の賛成を得て承認された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <p>数年前まではIGSUの行っている国際機関への資金援助(グラント)を得て、さまざまな活動を行ってきたが、ここ数年間はIUPSの提案は全く採択されていない。僅かに、本年度国際薬理学連合IUPHARの提案したアフリカにおける教育プログラム(Integrative and Organ Systems Science)の協力提案者となりこの提案が認められた。</p>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>IUPSでは傘下の地域連合(アジアオセアニア生理科学連合、ヨーロッパ生理科学連合、南米生理科学連合など)の活動を財政的にも支援し、地域連合を通じて地域的教育、研究課題への取組みを支援している。これらの地域連合は活発に活動し、地域的な問題に取り組んでいる。アジア・オセアニア生理科学連合の大会(The 7th FAOPS2019)が2011年9月11日-14日に台北で開催された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <p>発展途上国、特にアフリカの生理学教育・研究の振興には特別の注意を払い対応を考えている。アフリカ諸国においては生理学研究者・教育者の組織が不十分であるが、アフリカからも理事としてのメンバーを採用し、IUPSとアフリカの生理学研究者・教育者との連携を深める努力を続けている。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>生理科学は人間をはじめ生体の機能を理解することを目的とする学問である。遺伝子情報が解き明かされ、細胞・分子の機能の理解が進んだ今日、それらがどのように統合されて生体の機能になるのかの解明は一層重要になった。2009年に我が国で開催される国際会議もその共通課題として「Function of Life: Elements and Integration」を掲げ、その解明を目指す生理科学の目指す方向を示している。2019年に「Phylosophy of Life: Function and Mechanisms」を掲げて名古屋で開催する第9回FAOPS大会を成功させる。</p>
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
IUPS理事、(前) 副会長、(前) 会長	金子章道	1997	2009
IUPS副会長	倉智嘉久	2009	2013
FAOPS会長	岡田泰伸	2006	2011
IUPS内分泌専門委員会委員	清野 進	2005	2009
IUPS Physiome専門委員会委員	梶谷文彦	2005	2009

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUPS分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本生理学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本生理学会	3000	<a href="http://physiology.jp/">http://physiology.jp/</a>
日本神経科学学会	5200	<a href="http://www.jnss.org/">http://www.jnss.org/</a>
日本比較生理生化学学会	500	<a href="http://jscp.org/">http://jscp.org/</a>
日本時間生物学会	500	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/</a>
日本平滑筋学会	500	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmr/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmr/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名  
所属分野別委員会

IUPS分科会  
基礎医学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
御子柴 克彦	本間 さと	岡田 泰伸	倉智 嘉久

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	3	

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

本分科会は、IUPS本部との連絡を密にして様々な活動をメール会議等で行っている。現在は2010年に2019年開催予定のアジア太平洋州生理科学連合(FAOPS)のFAOPS2019を日本に招致する方針を決定し、招致準備委員会を立ち上げ2011年9月台北で開催のFAOPS2011時のFAOPS理事会及び同総会において正式提案を行い、イランとの決戦投票に臨むための準備を行っている。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2011/12/10	日本生理学会常任幹事会で第9回FAOPS大会(FAOPS2019)組織委員長を決定予定である。
2011/11/1	次期IUPS分科会の委員を決定した。
2011/9/1	次期IUPS分科会の再発足に向けてメール会議にて審議した。
2011/3/27	日本生理学会常任理事会開催時に第9回大会(FAOPS2019)招致準備委員会を立ち上げた。
2010/11/1	メール会議にて日本からのIUPS Representativeに御子柴会員を選出した。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IUPSに関する活動の周知・広報は主として国内対応組織である日本生理学会会員を対象に行われている。具体的には、日本生理学会が発行する月刊誌「日本生理学雑誌」に随時記事を掲載している。特に、2008年7月(第70巻7号)から2009年7月にかけての毎号にIUPSの役員、理事からの特別投稿記事を掲載し、IUPS活動の周知・広報を行った。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

2009年7月に開催される第36回国際会議には日本神経科学学会、日本時間生物学会、日本循環器学会など20を越える国内学協会からのシンポジウムの提案、協力が寄せられ、学術プログラムの作成に際し強い連携関係が得られた

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

特記事項なし

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

2009年7月に開催される第36回国際会議を準備するに際して、本委員会が行った学術会議との協力関係、IUPSとの協力関係は極めて貴重なものであり、そのために準備が滞りなく進んだことは高く評価される。IUPSの目的は重要であり、今後も堅持されて行くものと思われる。学術会議、日本生理学会とIUPSを結びつける組織として本委員会の今後の活動が期待される。